

わだち

特集

人と貨物を空で結ぶ
羽田空港
92年の歴史を振り返る

達人ノ音 社会人ラグビーチーム

日産Sun Nexus茨城

ロジスティード陸上部選手たちのONとOFF

牟田 祐樹





ボージョレ地区のぶどう畑

美食の秋

今日ではボージョレヌーヴォーの輸出先の半分は日本が占めています。ボージョレヌーヴォーのボージョレ (Beaujolais) は、フランスのブルゴーニュ地方ボージョレ地区の名前ヌーヴォー (Nouveau) はフランス語で新しいという意味です。その名の通り、その年の9月に収穫されたぶどうを醸造した新酒のワインになります。フレッシュな味わいが特徴なので、他のワインと違い寝かさずに、なるべく早く飲むのがオススメです。

流通のために、それよりも少し前にフランスから日本に輸入されてきますが、解禁日より前に販売することや飲むことは禁止されています。日本は日付変更線に近いため、フランスよりも8時間早く楽しむことができます。パブル期に「世界で最初に飲む国」というキャッチフレーズで販売店が売り出し、大ブームとなりました。初鯉や初茄子といった初物好きでイベント好きな日本人の嗜好に合ったのでしょう。

猛暑の夏が過ぎ、季節は秋へと移ります。秋といえば、スポーツの秋・読書の秋・芸術の秋・行楽の秋・食欲の秋など、楽しみが多い時期です。
毎年11月になるとボージョレヌーヴォーが、羽田空港などの日本の空港に到着するニュースを見かけます。解禁日は毎年11月の第3木曜日、今年11月16日です。



日立Sun Nexus茨城 ロジスティードグループのメンバー

Contents

特集

04 人と貨物を
空で結ぶ
羽田空港
92年の歴史を
振り返る

SDGsエコレシピ

10 大根のファイトケミカル
ふりかけ

達人ノ音

11 社会人ラグビーチーム
日立Sun Nexus茨城

ロジスティード陸上部選手たちのONとOFF

14 牟田 祐樹

18 Topics

19 編集後記

表紙

羽田空港第3ターミナル展望デッキより



ロジスティードグループ広報誌
わだち 2023秋号
2023年10月1日発行

編集発行人 金田 陽子
発行所 ロジスティード 株式会社
〒104-8350 東京都中央区京橋2-9-2
Tel.03-6263-2803
印刷所 株式会社 日立ドキュメントソリューションズ

人と貨物を空で結ぶ 羽田空港 92年の歴史を振り返る

1903(明治36)年、ライト兄弟が世界初の有人固定翼動力機による飛行を成功させ、その後飛行機の開発が一気に進んだ。羽田空港の原点となった。東京飛行場の開業は1931(昭和6)年。日本一の旅客数、発着枠を持ち、国際的評価も高い羽田空港の歴史を振り返る。



日本一のハブ空港

日本には97の空港があり、国内そして世界各地を空の便で結んでいる。その中でも「羽田空港」の通称で親しまれている東京国際空港は、旅客数・発着枠どちらも日本一のハブ空港だ。2022年の国内線・国際線を合わせた総旅客数は約5075万人だった。

また、コロナ流行前の2018年には、国内線・国際線合わせて約8560万人の総旅客数を記録していた。

初フライトの乗客は スズムシとマツムシ

羽田空港の原点となる東京飛行場が、現在の羽田空港整備場がある付近に開業したのは1931(昭和6)年8月25日。それまで民間航空は立川陸軍飛行場を間借りしていたので、東京飛行場が日本の国営民間航空飛行場となった。記念となる第1便は日本航空輸送の羽田発中国・大連行きだった。単発小型旅客機で座席は6席。搭乗したのは人ではなく、スズムシとマツムシ約6000匹だったという。大連で暮らす日本人に秋の風情を届けようと搭載された。その時はまだ、庶民にとって飛行機は一般的ではなく、運賃も高額だったため、旅客の需要がなかったことが背景にあったようだ。

開業時の東京飛行場の面積は約53ヘクタール。長さ300メートル、幅15メートルの滑走路が1本あるのみだった。

その後、拡張工事を重ねた羽田空港の面積は現在約1516ヘクタール。長さ2500〜3360メートル、幅60メートルの滑走路が4本ある。渋谷区の面積が約1511ヘクタールなので、羽田空港は渋谷区とほぼ同じ面積を有している。



さまざまな航空機が24時間発着する羽田空港

「羽田」の由来は 陸地の端にある 田んぼ

江戸時代の開拓から 始まる歴史

そもそもなぜ多摩川河口の埋立地に羽田空港ができたのか、おおもとは江戸時代まで遡る。その歴史については「進化する羽田空港」(著:唯野邦男、成山堂書店刊)に詳しく紹介されており、引用を交えながら紹介する。

江戸時代、多摩川河口の左岸に羽田村があった。多摩川によって運ばれてきた土砂の堆積でできた土地が開墾され、田んぼが広がってできた村だという。「ハ」は端、「ホ」は土地を意味し、「陸地の端にある海沿いの土地に作られた田」が羽田の語源だと考えられている。

この羽田村の海に近い方に羽田狺師町があり、そちらは漁業や商業、海運業の中心となっていた。人が集まり、にぎわいが生まれていく中、羽田狺師町の名主で船元の鈴木弥五右衛門が羽田村の干潟



1999(平成11)年に移設された穴守稲荷神社の旧一の鳥居



江戸時代と現在の羽田近郊

江戸時代の陸地 現在の陸地 江戸時代の地名 現在の地名

海水浴に潮干狩り 鉱泉宿もある 観光地だったことも

開拓、新田開発に乗り出す。場所は現在の羽田空港整備場のあたりで、そこは「鈴木新田」と呼ばれるようになった。

この鈴木新田の開発時、高波によって堤防に大きな穴が空くことがたびたびあったため、守り神として穴守稲荷社が鈴木家の私的な社として建てられた。その後、東京府知事から神社としての創建が認められ穴守稲荷神社となった。明治期以降には穴守稲荷神社を中心とした一帯に海水浴場や潮干狩り干潟ができ、鉱泉が掘られて

鉱泉宿もできたという。京浜電鉄(現・京浜急行電鉄)の穴守駅もでき、東京の一大観光地、保養地となっていた。

ライト兄弟のフライト成功 飛行機の時代へ

一方、1903(明治36)年、ライト兄弟が世界初の有人固定翼動力機の初飛行を成功させ、その後、世界中で飛行機製作が盛んになっていった。日本では1910(明治43)年、代々木練兵場で日本初の固定翼動力機による飛行が

行われ、羽田では1916(大正5)年、玉井清太郎が自作の「玉井式2号機」で飛行に挑み、成功した。玉井はその後、羽田穴守町に「日本飛行学校」を設立する。それが羽田と飛行機の関わりはじめとなった。

そして1928(昭和3)年、逓信省所管の日本航空輸送株式会社ができ、翌年、立川陸軍飛行場を間借りした運航が開始された。ただ、立川は都心から遠く、間借りによる制約も多いため、逓信省は都心近くに民間航空専用の公共飛行場の建設を決定。建設地として白羽の矢が立ったのが羽田だった。適当な規模の取得しやすき用地があること、障害物がなく、近くに穴守駅があってアクセスがよいことなどが考慮されたようだ。そうして1931(昭和6)年の東京飛行場開業へとつながっていった。



1973(昭和48)年、東京湾・大井ふ頭から撮影された羽田空港
写真提供:高橋 義雄 / PIXTA(ピクスタ)



開業から92年経った羽田空港から、今日も飛行機が飛び立つ



第3ターミナルは2010(平成22)年8月に竣工した。4階のレストラン&ショップフロアには、江戸の街並みをモチーフにした「江戸小路」「はねだ日本橋」がある

参考資料:『進化する羽田空港』(著:唯野 邦男・成山堂書店刊)、『羽田空港アーカイブ 1931-2023 Tokyo International Airport写真集』(監修:羽田航空宇宙科学館推進会議・徳間書店刊)

が実施した2023年国際空港評価(World's Best Airports)総合評価部門で、羽田空港は世界3位となっている。1位はチャング国際空港(シンガポール)、2位はドーハ・ハマド国際空港(カタール)だ。また同社の空港評価にはさまざまな部門賞があるが、World's Cleanest Airports(清潔さ部門)で羽田空港は8年連続の1位を獲得している。

ほかにWorld's Best Domestic Airports(国内線空港総合評価部門)では国内線エリアの使いやすさや快適性が評価されて11年連続の1位、World's Best PRM/Accessible Facilities(高齢者、障がいのある方などに配慮された施設の評価部門)で5年連続の1位を獲得している。

ロジスティードエクスプレス株式会社 羽田事務所 豊洲市場の魚介類を当日便でニューヨークへ!

羽田空港で輸出入される航空貨物を取り扱うロジスティードエクスプレス・羽田事務所は、第3ターミナルに隣接する東京国際エアカーゴターミナルビル内に事務所を構えている。

日々の業務は医薬品や検体、生鮮食品の輸出入通関や、輸入検査、動物検疫、植物防疫などの検査立ち会いだ。業務のバランスとしては、輸入よりも輸出のほうが圧倒的に多い。都心からの近さを活かし、トラックで約30分の豊洲市場から朝出荷された魚介類を受け取り、すぐに通関し、そのまま当日便でアメリカ・ニューヨークへ輸出する作業などを行っている。航空貨物の取り扱いにはスピードがより求められる。事務所には牧野 勝利所長をはじめ、通関士の資格を持つ従業員が3名おり、ベテラン揃いだ。カットタイム(貨物の締め切り時間)まで短時間しかない中、間違いのない通関作業を日々こなしている。

ロジスティードエクスプレス株式会社

DATA

住所	東京都大田区羽田空港2-6-3 東京国際エアカーゴターミナル 第一国際貨物ビル4階 417-418号室
電話	03-5708-7101
従業員数	4名

羽田事務所の従業員のみなさん
左から松枝 良一さん・所長の牧野 勝利さん
露崎 浩司さん・石田 敦幸さん

ロジスティードエクスプレス株式会社

ロジスティードエクスプレス株式会社

24時間 発着可能な 国際空港へ

太平洋戦争後の 空港接収

東京飛行場は太平洋戦争終戦後、GHQ(連合国軍総司令部)に接収された。名称は「ハネダアーミーエアベース」となった。その後、アメリカ軍によってそれまでの3倍半の面積にまで拡張され、利用されてきたが、サンフランシスコ講和条約の締結を経て、19

58(昭和33)年に日本へ全面返還された。その後、1978(昭和53)年に成田空港(新東京国際空港)が開港し、中華航空を除く国際線はすべて成田空港へ移転。2010(平成22)年、4本目の滑走路であるD滑走路と国際線ターミナル(現在の第3ターミナル)の供用が開始され、32年ぶりの国際線定期便が復活した。飛行機の24時間発着も可能となった。

世界3位の総合評価 清潔さでは8年連続1位

世界的に見て、羽田空港の評価は高い。イギリスに本社がある世界の航空関連格付け会社「SKYTRAX」



国際線が発着する第3ターミナル3階出発ロビー。ユニバーサルデザインが徹底され、「わかりやすさ」「使いやすさ」にこだわっている。視界を遮るものがない広大な空間も特徴の一つ

第2回 「わだち」は漢字で書くと「和達」
この「達」にちなんで各分野の達人を紹介していきます

15人でチームを 組むスポーツ 「ラグビー」の 魅力とは？

日立Sun Nexus茨城メンバー(写真右から)

上假屋 優輝さん

萩之谷 篤さん

横瀬 慎太郎さん

茨城県日立市を拠点とする社会人ラグビーチーム「日立Sun Nexus(サンネクサス)茨城」には、ロジスティード東日本株式会社の従業員9名が在籍している。9月からラグビーワールドカップ2023フランス大会が開催され、日本代表チームの活躍も注目される中、仕事とラグビーに真摯に取り組む従業員3人にラグビーの魅力などを聞いた。



ロジスティードグループ保養所
サン・アンド・サン荘 伊豆高原
料理人が教える

SDGs エコレシピ

vol. 2

今回の再利用食材は…

大根

大根のフアイト ケミカルふりかけ

ふろふき大根もおでんも葉や皮は取り除いてしましますが、植物が身を守るために作り出すファイトケミカルが含まれていて栄養豊富。干して乾燥させておけば食感も楽しいふりかけを簡単に作ることができます。

作り方

- ① 冷凍した乾燥大根の葉や皮を密封袋から出してボウルに入れ、同量程度の出汁を加えて解凍する
- ② ①を戻し汁ごと鍋に移して中火で煮る
- ③ 柔らかくなったら、醤油、酒、砂糖を加えて弱火でさらに煮る
- ④ 水分がなくなったら鰹節を加えて混ぜ、火を止める
- ⑤ 最後に炒り胡麻を混ぜ合わせる

※食べ切れない分は冷蔵庫で2~3日、冷凍庫で2週間程度保存可

材料

- 大根の葉・皮(細切りにして天日で干したあと密封袋に入れて冷凍保存し、100~200g溜めたもの)
 - 出汁(水でも良い)
 - 醤油
 - 酒
 - 砂糖
 - 鰹節1.5~3g(出汁に使った鰹節を利用しても良い)
 - 炒り胡麻大さじ1/2程度
- 大さじ1~2(好みで調整)



大根だけでなく人参の皮、かぶの葉、きのこ類も干し野菜に適しています。天気が悪くなってしまった場合、あるいは室内の窓辺で干す時は、扇風機で風を当てるなどしてカビが生えないよう注意しましょう。

大 根の葉は、βカロテン、ビタミン、カルシウムなどの栄養価が高く、汁の実になるのももちろん、炒めて醤油などで味付けするだけでヘルシーなお惣菜になります。余ったリすぐに食べたりにしない時には大根の皮と一緒に天日で干して乾燥させ、保存しておくときと重宝します。刻んでから干しておく、使う分だけ取り出せばいいので便利です。天気が良い日が2~3日続く日を見計らって、ザルに薄く広げて風通しの良いところで干してください。時々混ぜてまんべんなく風や日が当たるようにしましょう。カラカラに乾いたら、密封袋に入れて冷凍庫で保存。冷凍から出汁で戻したあとは、調味料と合わせて炒め煮にするだけ。ふりかけはもちろん、おにぎりやチャーハンの具にもぜひ。

茨城県日立市を拠点とする社会人ラグビーチーム「日立SunNexus茨城」。前身は1934（昭和9）年創部の「日立製作所ラグビー部」で、2022年に一般社団法人として地域密着型のチームに生まれ変わった。日立市とはホームタウン協定を結び、ラグビーを通じて地域の活性化などに協力している。そんな「日立SunNexus茨城」には現在、ロジスティド東日本株式会社社員の従業員が9名、在籍している。それぞれ日中の勤務の後、火・木曜の夜の約2時間、週末の土・日曜に行われる練習に参加する。場所は2023年7月にオープンしたばかりの日立市会瀬スポーツ広場だ。人工芝のグラウンドが整備されている。

外から褒められるより、中での評価がうれしい

会社での勤務とラグビーの練習そして試合、「プライベートはないですね。『遊びたい』という気持ちはずいぶん前に置いてきました」と笑うのは、2018年入社のかき之谷篤さんだ。多賀営業所に所属し、フォークリフトでの荷物積み込み作業を担当している。ラグビーでのポジションはフォワードのロック。ラグビーは1チーム15人で行うス



ポーツだが、前方でスクラムを組む8人がフォワードだ。その中のロックはスクラムの際は中央にいて、スクラムが崩れないよう、しっかりと集団を固め、押し込む役割を果たす。タッチラインから外に出たボールが、中に投げ戻される際に行われるラインアウトでは、背の高さを活かしてそのボールを受け取る役目になることが多い。密集で相手をなぎ倒しながら突進することも多い。

かき之谷さんはロックについて「泥臭く、粘り強く、常に動き続けているようなポジションで、私は気に入っています。外で見ている方からプレーを褒められるよりも、中でプレーをしている仲間から『あいつはいい仕事をする』と言われるほうがうれしいです」と話す。

2019年入社で電線営業部に所属する上假屋優輝さんはバックスのウイング、もしくはフルバック、2020年入社で総務課所属の横瀬慎太郎さんはウイングがそれぞれのポジションだ。

ラグビーの魅力は「15人という大人数でチームを組む集団スポーツはなかなかありません。海外には体格の大きな選手も多いですが、体重でのクラス分けもなく、いわば無差別級。相手と思い切りぶつかり合う激しいスポーツで、どんなに大きな相手にでも臆せず向かっていきます。仲間とのコミュニケーションは欠かすことができず、点を取った時はみんなであれしさを分かち合えるスポーツです」と熱く語る。

得点を狙いにくく、バックス陣

一方、フォワードに対してバックスと呼ばれるポジションには7人いる。ボールをパスでつないでいき、相手陣地へ走り込み、トライで点を取っていく役割を果たす。



2023年7月9日に行われた立教大学ラグビー部との練習試合での一場面。試合会場は埼玉県富士見市の立教大学富士見総合グラウンド。遠征費用などは協賛パートナーからの寄付金などで賄われる。

フルバックの役目です。横瀬さんは「ウイングは回ってきたパスを最後に受け、トライを取りにいきます。チームの中で一番足の早い選手がつくことが多いポジションです」とそれぞれ教えてくれた。3人も小学生の時にラグビーを始め、大学ラグビー部での活躍を経て、現在がある。

上假屋さんは「社会人ラグビーに所属して、サポートして下さる企業や地域の方々、応援して下さるファンのみなさんの存在の大きさを感ずるようになりました。私たちもしっかり恩返ししないとイケないと思います」と話す。「日立のEnergy茨城」は現在、社会人ラグビーのトップイーストリーグBグループに所属している。2023年9月から12月にかけてリーグ戦が行われ、所属5チームのうち上位2チームが12月下旬に行われるAグループへの入れ替え戦に臨める。目標はもちろんBグループ優勝とAグループへの昇格だ。横瀬さんは「戦力的にも今年はAグループ昇格が十分に狙えます。ぜひ応援をお願いします！」と力強く呼びかけている。



「日立Sun Nexus茨城」に所属するロジスティド東日本株式会社の従業員。それぞれが会社での勤務とラグビーを両立させている。日立市内の小学生向けに開催する「ラグビー教室」で、子どもたちにラグビーの楽しさを教えることもある。



日立Sun Nexus茨城（ひたちさんねくすいばらき）●前身は1934（昭和9）年創部の日立製作所ラグビー部。2022年に一般社団法人としてクラブ化した。部員数は約40名。チーム名のSun Nexusには「Sun」＝太陽（日立の選手、スタッフ、組織）と「Nexus」＝結び、縁、連結、連鎖、結合の意味が込められている。日立市を拠点にし、ラグビーを通じて会社や地域に夢と勇気と感動を届けることをミッションに掲げる。2023年のチームスローガンは「勝ちにこだわらぬ」。トップイーストリーグBグループ優勝とAグループへの昇格を目標としている。

Q 2023年春から就任したキャプテンとしての役割は？

部員をまとめるというよりも、対外的な顔として、チームを代表してあいさつしたり、取材対応したりする役割です。キャプテン就任にあたって部員のみならずには、「(チームの拠点がある)松戸市のみならずからも誇りに思ってもらえるようなチームにしていこう」という話をしました。

Q 今のチームは何点？

100点満点で20点くらいです。厳しい点数ですが、それは今、チームとして結果を出せていないからです。陸上は結局、タイムとか順位とか、結果がはっきり出る競技なので。ただ、チーム全体としてトレーニングはしっかり積めてきていますので、これからその結果が出てくるはずですよ。不安視はしていません。



Q 陸上部のこれからの目標は？

チームとしては2024年元日のニューイヤードで6位以内に入ることです。監督からはそう言われています。個人的にはそのニューイヤードで最長区間を走り、勝負をしっかりと結果を出すことが目標です。最長区間には、各



「地域のみなさんにも誇りに思ってもらえるチームにしていきたいです」

ロジスティード陸上部の選手にオンとオフの過ごし方・陸上への思いを聞くこの企画。今回は2023年春にキャプテンに就任した牟田 祐樹選手に、チームの評価やこれからの目標などを尋ねてみました。

Q 陸上部として地域との関係は？

これまでは松戸市の小学生を対象にした「かけっこ教室」を開催してきましたが、これからは中学校や高校の部活で陸上をしている選手たちや、一般の方で趣味として走っている方たちにも、私たちの知

Q 応援は力になりますか？

もちろんです。駅伝の大会などで、従業員のみならずが私たちの名前を書いた横断幕を持って応援に来てくださるのですが、本当にうれしいです。私は、熱い、人間的なので、応援してくれるとスイッチが



牟

田

祐

樹

ロジスティード陸上部
選手たちの
ONとOFF
vol.2
Muta Yuki



目立ちたがり屋だけど、心配性。出来事に感情が左右されやすいので、できるだけ気持ちを安定させるように心掛けています。

Q 自分の性格は？

Q 好きなタレントは？

日本テレビの笹崎里菜アナのファンで、そのことを公言していたのですが、大学4年生の時、箱根駅伝の事前取材で笹崎アナが大学に来てくれました。チームメイトの中では私だけがツーショット写真を撮らせて、うれしかったです。その学生時代最後の箱根駅伝では、区間3位（7区で出走）の成績を残せて、自分の中では満足できる結果となりました。

Q 食事で気を使っていることは？

食事は妻が作ってくれるので、その料理をバランスよく食べることで、血糖値の急上昇を抑えるために野菜サラダから食べるようにしたりはしていますが、徹底した栄養管理をしているという感じではありません。

Q オフィスワークはどこで？

週2日、午前10時から午後2時まで、埼玉県さいたま市にあるロジステード関東株式会社・経理課（9月末現在）で勤務しています。経理課の仕事だけでなく、いろいろな部署に携わらせていただき、社内の仕事が分かってありがたいです。陸上の大会に出場する前と、その結果については時間を設けていただき、社内のみなさんに報告します。私にとってはいいプレッシャーとなる大切な時間です。みなさん、応援してください。



Q 好きな食べ物は？

フルーツ全般が好きで、特に柿が好きです。なぜ柿か？と言われると困るのですが、昔から気がつくとう柿を食べていました。実家に行った頃は1日1個までと決められていたのですが、大学で寮暮らしになってからは「好きなだけ食べられる」とうれしかったです。ある時、気がついたらスーパーで10個以上の柿を持ってレジ前に並んでいる、店員さんに「好きなんですね」という感じで微笑まれたこともありました。

Q 趣味は？

読書です。ミステリー小説が好きで、東野圭吾さんや中山七里さんの作品などをよく読んでいます。「このミステリーがすごい！」大賞は毎年チェックして、ランキングしている本を読んだりしています。サウナも好きです。水風呂が好きなんです。



オフの日は昨年誕生した娘と一緒に お出かけします。将来、陸上は……勧めませんね。

Q 陸上を始めたきっかけは？

中学2年生の時、それまでやってきたスキーやテニスとは別のスポーツを始めたいと思い、陸上部へ行きました。顧問の先生に「棒高跳びがしたいです」と言ったのですが、「うちではやっていない」と即答で却下。それで、もともと得意だった長距離に挑戦することにしました。棒高跳びを希望したのは「かっこよさそう」だったからです（笑）。

Q オフの日の過ごし方は？

昨年10月に娘が生まれまして、家族でのお出かけですね。ショッピングモールへ行ったり、動物園に行ったり。先日は動物と触れ合える動物園に行って、娘をアルパカに会わせたら大泣きされました。

これからもいろんな経験をさせてあげたいですね。でも、将来、陸上は勧めません。こんなにしんどいことはさせたくないな、という思いからです。

Q ヘアスタイルのこだわりは？

美容室派です。ヘアスタイルはよく変えるほうです。昨年は結べるようになったら大きですが、結構髪を伸ばしていました。今年春にバッサリ切ってもらって、今はこんな感じです。



むた ゆうき ● 1993年生まれ、東京都出身。西武文理高校、明治大学卒業。2016年、ロジステード陸上部に入部。明治大学体育会競走部では3年生、4年生の時に箱根駅伝に出場。2023年春からロジステード陸上部キャプテンを務める。

CO₂排出量の 可視化サービスを開発 物流環境大賞で特別賞受賞

ロジスティード(株)とロジスティードソリューションズ(株)が共同開発した「EcoLogiPortal™(サプライチェーン輸送領域におけるCO₂排出量可視化サービス)」が、(一社)日本物流団体連合会主催の第24回物流環境大賞において「特別賞」を受賞しました。

「EcoLogiPortal™」は出荷明細や運行情報システムなどをロジスティードのIT基盤と連携させ、CO₂排出量の可視化を可能にします。排出量の全体像を把握し、削減に向けた具体的なアクションの検討、実行をサポートします。



東北・みやぎ復興マラソン2023 協賛

11月5日開催予定の「東北・みやぎ復興マラソン2023」にオフィシャルパートナーとして協賛します。

この大会は2017年から東日本大震災の被災地復興に寄与することを目的に開催されており、今大会は「杜の都」仙台市内を走る初めてのフルマラソンに生まれ変わりました。「震災の記憶と経験を未来につなぐ」この大会を、地域のみなさん、参加するランナーのみなさんと一緒に創り上げていきます。



*「わだち」の無断転載はご遠慮ください。*本誌内においては会社名の敬称を略しておりますので何卒ご了承ください。

お問い合わせや感想はこちらまで

わだち編集事務局：wadachi@logisteed.com

編集後記

今年ワールドカップ開催が目白押しでまさにスポーツの秋。観るのもプレーするのも良い季節になりました。特に観戦ではそのスポーツに詳しい人と一緒に見るのが楽しく、ルールはもちろん、プレイヤーの特徴なども解説してもらえると試合の見方も変わってきます。秋号で紹介したラグビーは9月から試合が始まりましたが、日本代表の結果がどうなっているか楽しみです。(金田)

東京から世界への空の玄関口である羽田の特集です。入社した頃は、成田は海外・羽田は国内向けの空港というような住み分けがあり、フォーディング研修を成田で受けました。その後、羽田に国際線が復活した後、営業として成田発のお客様の貨物と一緒に海外をまわり、都内への即配達希望に応えるために羽田空港を利用しました。選択肢が増えたことで、できることが広がりました。(谷野)

秋号の特集はロジスティードエクスプレス株式会社の事務所がある「羽田空港」を取り上げました。日本一の旅客数を誇る羽田空港の92年間にわたる歴史を振り返ります。また、「ロジスティード陸上部選手たちのONとOFF」第二弾は、キャプテンの牟田選手です。チーム目標や評価、プライベートのこともお聞きしました。ぜひご覧ください。(三室)

パッケージングコンテスト ダブル受賞

テクニカル包装賞／大型・重量物包装部門賞

「2023日本パッケージングコンテスト」(主催:(公社)日本包装技術協会)の表彰式が8月30日、東京都内で行われました。ロジスティード(株)が受賞したテクニカル包装賞は、ロジスティード東日本流通サービス(株)の「エレベータ部品木箱の段ボール化」、大型・重量物包装部門賞は、ロジスティード東日本(株)の「試薬交換ロボット用スロープ付き輸送梱包箱」が評価されたものです。このコンテストは今年で45回目となる日本の包装分野における最大級のコンテストです。



ソープボックスダービー®世界大会 「LOGISTEED ニッポン号」出場

ソープボックスダービー(重力カーレース)の世界大会「オールアメリカンソープボックスダービー」が7月22日、アメリカ・オハイオ州で開催されました。ロジスティード(株)は日本代表選手の出場に協賛し、社名を冠した「LOGISTEED ニッポン号」が出場しました。



オランダ物流会社の全株式取得

欧州域内で低温混載輸送サービスを提供するオランダの物流会社Van den Bos & van Daalen Materieel B.V.(以下、BosDaalen社)の全株式を取得する株式譲渡契約を締結しました。BosDaalen社は、ともに創業100年を超えるCARGOBOSS社とVan Daalen Transport社が2021年に合併し、発足したトラック輸送会社です。主にオランダからドイツ、スイス、北フラ

ンスへ青果・花卉などをデイリーベースで輸送し、帰り荷として青果・乳製品・ドライ品をオランダへ輸送する事業を展開しています。

ロジスティードグループは今回の株式取得により欧州における低温混載輸送事業に参入し、事業領域を拡大していきます。



物流センターの在庫適正化を 支援するSCDOS協調型 在庫コントロール支援サービス 提供開始

2023年度から物流センターの在庫適正化の支援を目的に、在庫管理におけるデータ分析の自動化、AIやシミュレーションによる分析の高度化・見える化を可能にする新サービスの提供を開始しました。

このサービスは、物流センターの在庫管理に関わるお客様の物流本部・商品本部や、お取引先様などのステークホルダーをデジタルでつなぎ、データに基づいた在庫適正化を推進するものです。



燃料電池トラック初導入

ロジスティード東日本(株)は、ロジスティードグループで初めて燃料電池トラックを導入しました。今回導入した燃料電池トラックは、水素と酸素を反応させて電気を起こす発電システムを搭載し、走行時にCO₂を排出しないため、環境に配慮した次世代の車両として注目されています。

ロジスティードグループは「脱炭素社会への貢献」を重要課題の一つと位置づけ、気候変動への対策および脱炭素社会の実現に向け、温室効果ガス排出量の削減やエネルギー利用の効率化に取り組んでいます。その中で、低燃費・低公害な環境対応車(エコカー)への代替を進めています。



安全運行管理ソリューション SSCV-Safety® 労務管理機能追加

安全運行管理ソリューション「SSCV-Safety®」に、労務管理の精度向上を支援する「デジタル労務管理」機能を追加しました。SSCV-Safetyは輸送の安全を支援するための「予測する・見守る・振り返る」の3つの機能に加え、デジタル点呼簿やデジタル日常点検簿などデジタルの力で管理業務の負荷を軽減する機能を実装しています。今回、輸送事業者の法令遵守をサポートするため、デジタコと連動したドライバーの労務管理機能を追加しました。



「TDBC Forum 2023」出展

7月7日、東京ポートシティ竹芝 ポートホール(東京都)で開催された「TDBC Forum 2023」(主催:(一社)運輸デジタルビジネス協議会)に出展しました。ロジスティードブースでは「安全運行管理ソリューションSSCV-Safety」を紹介しました。



「夏休み 子どもの食 応援ボックス」 災害用備蓄品提供

子ども支援に取り組む(公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの事業「夏休み 子どもの食 応援ボックス」に、本社・ロジスティードビル(東京都)の入れ替えた災害用備蓄品のたまごスープ約5,000食を提供しました。



©Save the Children

